

◎ロンゲス錠 [内]

【重要度】★ 【一般製剤名】リシノプリル (U) Lisinopril 【分類】アンジオテンシン変換酵素阻害剤

【単位】△5mg・◎10mg・▼20mg/錠

【常用量】■高血圧症：10～20mg/日 [重症高血圧症又は腎障害を伴う高血圧症の患者では5mgから投与を開始] ■慢性心不全（軽症～中等症）：5～10mg/日 [腎障害を伴う患者では2.5mgから開始]

【用法】分1 [慢性心不全に適用する際にはジギタリス製剤、利尿剤等の基礎治療剤と併用]

【透析患者への投与方法】尿中未変化体排泄率は高いが減量しなくても顕著な副作用は現れにくい (5)

【その他の報告】減量し、投与間隔を延長する (Eur J Clin Pharmacol 34: 61-65,1988) 25～50%に減量 (3,17) 半量を24hrおきに (10)

【PD】データなし (17)

【CRRT】2.5～20mg/日 (17)

【保存期CKD患者への投与方法】GFR>50mL/min：減量の必要なし、GFR 10～50mL/min：50～75%に減量、GFR<10mL/min：25～50%に減量 (3,12,17)

【その他の報告】Ccr10～50mL/min：75%に減量、Ccr<10mL/min：50%に減量 (10)

Ccr 30mL/min 以下またはScr 3mg/dL以上：50%に減量するか投与間隔を延長するなど慎重投与 (1)

【特徴】代謝による活性化を必要としないACE-I。高血圧症と軽症～中等症の慢性心不全に適用される。吸収率が低く、吸収された薬物はほぼ100%尿中に排泄される。透析患者では貧血、高K血症およびAN69膜との相互作用に注意が必要。

【主な副作用・毒性】空咳、血管浮腫、味覚障害。腎機能低下例では高カリウム血症に注意する。EPO産生抑制による貧血が高頻度に発生するという報告有り (透析会誌 27: 171-174,1994)

【モニターすべき項目】血圧、白血球数、腎機能、尿蛋白定性

【吸収】25%以下 (11) 25%、心不全で低下 (13)

【F】約25%で、6～60%と個人差あり食物の影響を受けない (U) 25～50% (10) 20%以上 (1)

【tmax】7hr (13,U) 6～7hr (1)

【代謝】代謝されない (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率ほぼ100% (1) 88～100% (12,13) 70% (10) 21～27% [po, 72hrまで] (1) 85% (17) 【CL】100mL/min (10) 4.2mL/min/kg、心不全・腎障害・加齢により低下 (13) 腎CL100mL/min (1) 【非腎CL/総CL】20% (10)

【t1/2】33hr (1) 30hr (10,12) 12hr (11,13) 【透析患者のt1/2】末期腎不全では3倍に延長 (Eur J Clin Pharmacol 34: 61-65,1988) 36～48hr (10) 40～50hr (12)

【蛋白結合率】結合しない (U,13) 3～10% (11) 0% (12) 10% (1)

【Vd】31～36L/man (11) 2.4L/kg (13) 1～3.8L/kg (12) Vd/F=155L/man (1)

【MW】441.5

【透析性】濃度低下率40～50% (1) 50%かそれ以上 (Br J Clin Pharmacol 26: 781-786,1988) 【透析CL】40mL/min (Br J Clin Pharmacol 26: 781-786,1988)

【TDMのポイント】ACE阻害のEC90は27ng/mL (13) 安全性が高いためTDMの対象にはならない 【O/W係数】10.2 (11) 0.0004 [1-オクタノール/水系, pH7.4] (1) 【pKa】1.6, 3.1, 7.6, 10.7 (1)

【効果発現時間】60min 【最大効果発現時間】6hr

【効果持続時間】約24hr

【備考】2型DM患者において、ACE-I以外の降圧剤と比較して降圧度合が同等でも腎症進展抑制効果が弱い (Giolio A, et al: Nephrol Dial Transplant 16: 961-966, 2001) 【禁忌】AN69膜の使用禁忌、デキストラン硫酸固定化セルロース、トリプトファン固定化ポリビニルアルコール又はポリエチレンテレフタレートを用いた吸着器によるアフエレーシス施行中の患者はショックを起こすことがあるため禁忌 (1)

【更新日】20230511

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。